

6.8 「業務スーパー」創業者 沼田昭二氏から躍進の舞台裏と新ビジネスを聞く

経営トップセミナー

企業経営委員会は、全国に「業務スーパー」を展開する(株)神戸物産創業者の沼田昭二氏を講師に迎えて「経営トップセミナー」を開催した。

沼田氏は三越百貨店を経て、1981年に加古川に食品スーパー2店舗を開業、2000年には製販一体型ビジネスモデルの「業務スーパー」を立ち上げ、フランチャイズ方式により店舗網を拡大した。利益率10%以上という高収益体制を確立した背景として加盟店の存在を挙げ、「加盟店は販売のプロ。本部では考えられない売り方の成功事例

が多々あった。その事例をまとめ、ブラッシュアップしていったことが大きい」と語った。

2016年には地熱発電を主力事業とする(株)町おこしエネルギーを創業し、「火山国・日本の地熱資源は世界3位の規模」とそのポテンシャルを強調。効率的な発電設備パッケージと神戸物産で培ったフランチャイズ方式で、地熱発電所を展開するプランを説明し、「地域活性化と再生可能エネルギーをWin-Winの形で融合する」と今後の抱負を述べた。



中小企業振興部



6.21 国と神戸市のDX関連施策を一挙に紹介

デジタル化・DXに役立つ関連施策説明会

次世代産業委員会は、企業がデジタル化やDXを進める上で活用可能な支援施策に関する説明会を開催した。

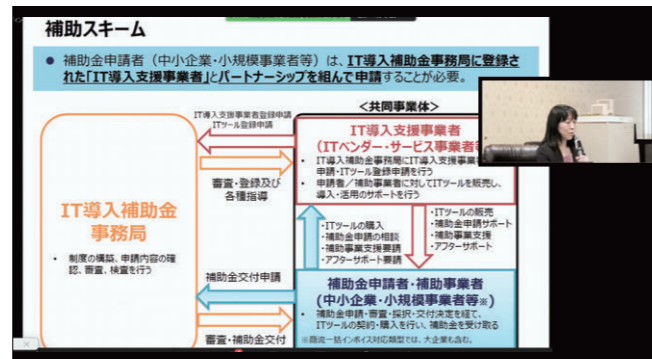
企業におけるデジタル化は、業務効率化や生産性向上の観点から、規模や業種を問わず喫緊の経営課題となっている。こうした中、政府は「IT導入補助金」や「事業再構築補助金」、「ものづくり補助金」などの補助事業や、デジタル化支援ポータルサイト「みらデジ」の開設などの支援施策を展開。また、神戸市は「神戸市中小企業DXお助け隊」として、専門アドバイザーによる伴走支

援などを実施している。

今回の説明会は、これらの施策について一挙に理解を深める機会として初めて開催したもの。当日は、近畿経済産業局及び神戸市が各施策を紹介し、近畿経済産業局の次世代産業・情報政策課の乾氏は「プロセスを電子化する『デジタル化』に加えて、デジタル技術を活用して本当にやりたかったことをやる『DX』を実現し、新たな価値を提供してほしい」と述べ、各種支援施策の活用を呼び掛けた。



産業部産業・国際チーム



5.31 海外輸出成功の秘訣を学ぶ

KOBE Innovation Meetup



スタートアップと地元企業の連携を促進するため、「海外輸出の成功法」をテーマにミートアップイベントを開催した。

貿易DXを支援するスタートアップ、(株)スタンダーズの堤雄三氏は「中小企業が海外輸出に取り組むには、ターゲット国の市場調査や貿易計画の策定、知的財産保護、万が一の撤退プランの検討が必要」と話し、同社の取り組みを紹介した。その後、地元企業の事例として、(株)加美乃素本舗副社長の木村健氏が海外販路開拓の経緯や成果を説明した。

産業部産業・国際チーム

6.8 ビジネス数字を見る勘所をつかむ

経営幹部のための決算書の読み方



会社経営に不可欠なビジネス数字の見方をマスターするため、(株)セントエイブル経営代表取締役の大塚直義氏を講師に迎え、セミナーを開催した。

大塚氏は、「会計の専門知識がなくても、経営における“見るポイント”を押さえることで計数感覚は十分養える。その上で、数字に基づく経営判断と資金管理を徹底すれば、儲かる強い会社となる」と強調した。

参加者からは、「事例を用いた演習などアウトプットの機会があり、より理解が深まった」との声が聞かれた。

会員事業部人材開発チーム

6.2 外資系企業誘致をテーマに意見交換

国際ビジネス委員会



国際ビジネス委員会は、「神戸市への外資系企業誘致」をテーマに委員会をオンラインで開催した。

冒頭、神戸市経済観光局副局長の瀬合達也氏と企業立地課長の安藤崇氏が、同市の外資系企業誘致施策を説明。続いて、委員のマエダ不動産(株)代表取締役社長の前田烈氏が、神戸市における外国人の住環境について「教育・医療をはじめとするインフラの充実度が、大阪など他都市と比べても高いレベルにある」とその優位性を強調した。その後、委員会メンバー間で活発な意見交換が行われた。

産業部産業・国際チーム

6.13 公的融資の最新情報をワンストップで入手

公的融資説明会



地元行政機関や信用保証協会、政府系金融機関などの9機関より、中小企業向け公的融資の最新情報を提供する説明会を開催した。

当日は、令和5年度の新設制度や改正点をはじめ相談窓口や相談時に必要な書類・留意事項などについて説明。コロナ融資の据置期間が終了するタイミングでもあることから、例年の倍以上となる150名が参加し、公的融資に対する関心の高さが伺えた。

参加者からは「一度に複数の機関の新しい情報が聞けてよかった」との感想が寄せられた。

中小企業振興部

6.15

Z世代から読み取れる 新しい価値観を学ぶ

企業経営委員会



企業経営委員会は、(株)電通クリエイティブ・ストラテジスト兼ウェリズム(株)代表取締役の用丸雅也氏を講師に迎え、「消費者ではなく、パートナーとしてZ世代を捉える4つのキーワード」と題し講演会を開催した。

用丸氏は、Z世代をはじめとする若者の言動や価値観が生まれた時代背景を紹介。Z世代の行動姿勢を「石の上に3年も待てないが、好きなことには全力で取り組む世代」と表現し、若者のインサイトを捉えたブランディングの重要性を語った。

中小企業振興部

6.16

長時間労働削減への支援を求める

地元建設業・関連事業者の振興に関する要望



「地元建設業並びに関連事業者の振興に関する要望」をとりまとめ、神戸市に要望書を提出した。

國井副会長、今津建設部会長、岡・山下副会長が、今西・小原副市長ら神戸市幹部と懇談し、建設資材・燃料費の高止まりや長時間労働の削減に迫られ、人材の配置・工期の調整に苦慮している現状を訴え、地元企業への優先発注や週休2日制を前提とした工事発注を要請した。

神戸市側は「適切な労務単価の設定や工期設定など、要望内容を踏まえて対応したい」と応じた。

地域政策部

6.16

既存企業とスタートアップ企業間の 人材交流の意義とは

スタートアップとの人材交流に関するミートアップ



既存企業とスタートアップ間の人材交流や高度人材の育成手法を考えるミートアップを開催した。

企業間レンタル移籍プラットフォームを運営する(株)ローンディール、人材レンタル育成事業を手掛ける(株)プラスアルファ・コンサルティングが、自社の取り組みを紹介。

スタートアップが期間限定で既存企業の人材を受け入れることで、「既存企業は変革を担うリーダーを育成でき、スタートアップは既存企業の知見を取り込める」と人材交流のメリットを強調した。

産業部産業・国際チーム

6.16

英語で自己紹介を練習

Successful Business Networking



国際ビジネス委員会は、(株)NEI Japanと連携して英語の交流イベントを開催した。同社は神戸に拠点を置くシアトルのスタートアップ企業で、AIを活用しパーソナライズされた教材・カリキュラムによる英会話オンライン学習サービスを提供している。

本イベントでは参加者とネイティブ講師が1対1で自己紹介を練習。一分間の自己紹介を繰り返しながら積極的に相互交流する姿が見られ、参加者からは「英語を学ぶ異業種の方と交流できて刺激になった」などの声が聞かれた。

産業部産業・国際チーム